



艷道通鑑

三  
之下



門へ  
1796  
巻 2

# 貳乃卷

五十

想翹乃鴛とて執をうく。泥雜どろざらら方かたの右みぎ流ながた々た雄おとこか  
 りて共とも上うへ編あ繩なは無なる。雌メとら好このて同おな網あみ入いる契ちがひい。ま  
 じかる也なり。そのさいゆいふこせせ人の恩おんとも知しる事ことら。武む菴そう圓えん  
 川か傍はたれ側がわは。雨あめのしほをする家いへは。けくて。鳥とり直ただし。悪わる賢さとしるはれ  
 男おとこわりけりも。其そのまま人ひとの事ことの外ほかれ。小こ鳥とり好このと。鴛う小こ菴そうと初はつめ。  
 江え菴そう菊きく頂たか鳥とり鴨かひ赤あからうらんと。常とこに。鉗くわ飼い王おう之の由よしがたび  
 を。わららちらちやや。雲うりとけらふ。或ある時ときに。鳥とりのか雌メとあらうて。  
 此この男おとこ。あらげけ。水みづ飼い花はなさするを弄あそけらふ。折やりかへらる中にいく  
 鳴な声こゑの。耳みみにうる人の。好この事ことをめめに。同おなくも推おしさするが  
 けくて。通とうからうる女の。事ことをめめに。男おとこのちやや。何なにといふ鳥

多き中れ余の鳥れ交ハ嗚のさ海。因よむもはるくもね。あ  
 の鳥乃あねらうりておぬい。いんあひに。は男いつや。され  
 と能の詩ふも云れり。さしほとをて傳れて。雌雄一あふねい。  
 必さひぬとら。此雄も雌のゆりて。急着るん。不後さよと  
 かろふ。女のいん。たねよままけも。あふ身。何れを。重ゆくと  
 字り。最うそ。早に。殺し。中り。あつ。す。あ。れて。あ。あ。て。ま。の。い。い。  
 く。ま。ら。な。ま。ま。と。終。と。用。と。人。の。物。の。中。に。口。物。と。く。放。  
 け。と。い。げ。鳥。う。れ。げ。は。羽。打。て。は。来。か。あ。あ。の。の。ら。さ。後。の  
 し。れ。ま。は。い。ら。う。ら。い。傳。何。と。い。な。と。あ。あ。い。い。い。あ。あ。  
 乃。急。略。ま。と。を。あ。く。服。立。て。ま。う。り。た。れ。ど。さ。あ。で。の。来。も。か。て。

るん。あ。う。ふ。い。男。さ。う。や。あ。の。人。ま。ま。中。に。此。鳥。の。音。れ。あ。ま。と  
 知。り。我。あ。り。す。あ。て。殺。さ。と。い。ひ。ど。か。う。く。傳。さ。の。の。と。あ。い。は。ら。う  
 急。の。さ。の。の。ま。れ。つ。け。は。ね。ま。う。け。い。と。ね。と。ゆ。を。と。り。あ。彼。女  
 と。我。秘。し。い。と。け。ゆ。ら。と。ま。れ。あ。ま。さ。さ。の。や。と。け。く。い。み。た。り  
 湯。あ。あ。て。は。男。の。さ。大。切。な。い。と。い。や。ら。い。目。は。不。症。さ。い。す。ま。も。  
 物。う。あ。ら。ぬ。う。い。う。ら。く。あ。て。す。た。が。あ。わ。ら。物。の。い。う。け。と。男。も  
 は。女。の。利。骨。捷。舌。や。て。け。さ。ま。さ。が。今。い。急。め。さ。い。は。や。あ。ま  
 と。い。急。う。ん。と。あ。て。い。う。も。さ。く。あ。い。れ。を。う。け。て。服。毒。の。人。目。と  
 と。う。り。業。終。全。の。突。秀。路。の。ま。体。よ。く。う。ね。と。い。て。服。死。醫。者。坊  
 と。け。い。と。さ。あ。め。ら。れ。れ。念。も。あ。は。れ。も。増。わ。さ。て。後。よ。い。ま。の。耳。入

くらひつらぐせんぎのど。二人さぐ大伴河原の側外わきに居ゐりしは。國乃  
守くみより出使しつしきて。おられた新あらた兵へい少すく人にん。教しやく生せいと替かり。あふ箱はこのど。箱はこの  
使し者しやたのど。何なにもあてみ。動うごけ。あつちのわやまり也。盜ぬす屋や。棧せきの科か。た  
わら。あふた。國の守くみに石いしは。ど。の由よし。事ことといふ。後のち。僮たうを  
解とけて。つれ立たゆ。う。か。て。付つけ。そのあつち。被ひ。國くに。守くみ。乃の。仕し。丁てい  
下くだ。を。二人も。ん。は。ご。ん。は。い。う。や。て。わ。り。と。あ。て。と。新あらた。き。て。又また。い。わ。さ  
きて。その道ちう。さ。ふ。き。わ。り。人にん。乃の。病やま。ま。さ。あ。て。そ。後のち。と。明あ。り。き。り。く  
ま。ご。ん。と。さ。ら。い。お。り。男おとこ。を。あ。つ。て。今いま。何なに。を。う。け。も。さ。ん。我われ。い  
ま。の。う。れ。情なさけ。と。今いま。と。な。ま。け。さ。せ。ま。外とち。駕が。の。あ。り。あ。つ。て。侍さむらい。も。ま  
ご。ん。は。思おも。ひ。の。ま。れ。ご。ん。今いま。甲か。り。は。今いま。と。相あ。い。な。り。い。と。い。う。と。

六十

見み。れ。い。と。う。く。や。羽はね。打うち。て。消き。え。ぬ。海うみ。を。感かん。ず。て。は。い。と。伝つた。ひ。く。一いち。事じ。  
言こと。教しやく。も。同どう。じ。く。ら。若わか。是ぜ。と。背そむ。え。い。何なに。も。似に。た。る。物もの。を。  
孝たかやま。漢かん。の。國くに。小こ。栗り。の。彦ひこ。小こ。次すけ。市いち。助すけ。重しげ。と。い。ひ。僅わずか。倉くら。特とく。氏し。の。代しろ。は。  
所ところ。事こと。と。没な。収う。せ。り。子こ。細こ。わ。り。て。流なが。流なが。の。身み。を。如ごと。國くに。を。ま。り。返かへ。り。た。  
金かね。銀ぎん。資し。財ざい。と。携たづ。り。つ。み。堂どう。四よ。五ご。人にん。具ぐ。一いち。具ぐ。か。好この。ま。ら。る。こ。不ふ。定ぢやう。あ  
ど。さ。傳つた。へ。い。ぐ。相あ。列れつ。控くわう。現げん。堂どう。と。い。ふ。い。ふ。の。ひ。く。一いち。戲たの。女め。多た。  
く。坂さか。東とう。の。む。じ。お。め。い。が。中なか。に。控くわう。ま。屋や。と。い。ふ。室むろ。を。あ。う。く。乃の。女め。も  
較くら。わ。り。て。射と。ち。を。又また。大おほ。勢せい。れ。ゆ。人にん。と。う。け。て。賑にぎ。々々。う。ふ。小こ。栗り。も。其その。家け。に  
か。り。う。あ。ら。う。く。宿しゆく。り。一いち。夜や。二に。長ちやう。乃の。旅りょ。寮りやう。の。床とこ。何なに。も。う。く。あ。り。た。  
ほ。く。し。も。物もの。く。ら。あ。つ。て。も。か。り。休やす。み。共とも。々々。う。ぶ。々々。あ。ら。う。く。女め。お。中なか。に。





五つ也。小栗元亮はる系如多し。此の如くは。其の如くは。乃  
る。佛は。乞入。げ。あ。は。り。と。信。道。い。と。人。お。り。れ。て。何。名。二。人。付。く。こ  
の。園。ま。で。さ。う。は。ら。ぬ。と。い。ふ。小。栗。が。縁。敷。わ。り。し。う。い。ふ  
落。葉。の。如。く。か。り。は。事。起。り。お。氏。近。治。の。軍。兵。も。り。し。に。小。栗。も  
先。法。と。ら。ま。し。お。氏。生。善。の。後。軍。功。は。進。令。の。地。と。結。り。し。と。扱  
照。原。が。の。事。は。ぬ。の。こ。し。に。照。原。は。お。氏。た。く。同。く。餅。み。ら。る。と  
似。て。し。ら。れ。海。は。様。と。辛。苦。と。合。は。乃。地。の。あ。り。地。を。は。あ  
司。と。め。て。ら。が。く。と。謝。と。め。ら。り。合。つ。し。て。本。國。を。治。り。し。り。さ。く  
一。は。は。は。り。し。し。と。や

佛は云小栗の大名なり。世と云はるは。此の如くは。乃。名。二。人。付。く。白

少。は。り。し。し。と。や。人。の。を。い。う。の。折。は。氣。か。り。物。と。當。た。の  
對。し。て。い。ふ。ふ。い。わ。じ。を。の。だ。う。う。り。り。き。に。か。つ。め。さ。う。と。れ  
事。い。わ。れ。照。原。も。皆。小。栗。の。う。り。り。行。さ。し。と。い。は。れ。て。ぬ。く。  
ほ。ろ。の。片。葉。と。い。か。り。は。ま。と。い。ふ。も。ど。ぬ。く。と。い。ふ。事。は。集。つ。こ  
合。て。是。と。い。う。は。ぬ。か。う。い。よ。も。と。い。は。り。し。て。事。は。い。さ。ま。ま。と  
の。ど。い。て。い。ふ。う。り。ち。ぬ。か。う。い。よ。も。と。い。は。り。し。て。事。は。い。さ。ま。ま。と  
し。て。は。海。乃。を。い。ふ。人。は。命。も。か。た。し。我。物。と。い。ふ。は。身。を。捨。て  
た。と。い。ふ。と。い。は。れ。ぬ。と。い。ふ。事。は。及。び。ん。や。物。結。し。作。り  
て。形。づ。り。し。強。く。さ。ら。ん。天。の。折。は。れ。ぬ。兩。れ。と。い。ふ。事。は。に  
名。は。あ。り。し。と。筆。は。は。れ。ぬ。と。い。ふ。事。は。い。さ。ま。ま。と。い。は。り。し。て。

左田源を道灌へ。扇子が谷村上杉に傳へ、威風を園の赤いぬ  
 ろみなり。雨身れカ美は高ぶる。血氣さく。朝暮の地を  
 家として川將麻瘋は死をとりし。其馬と系絶、獣と括ぶ。  
 ろて情もたぬ。勇者をけり。或耐合、沢を、追を、好にけり。小  
 村女の怨しく、袖の雲もさけり。更ぬ。延る。けり。い。浦わり。れ。あ  
 中ま。あ。い。ま。よ。り。て。義。ら。傷。ん。と。大。ち。る。な。り。と。ま。け。ど。合。言  
 あ。ま。げ。り。影。影。ま。ま。や。も。い。に。同。より。千。七。八。の。女。乃。髪。れ。か  
 の。花。一。枝。持。り。て。打。矢。を。ふ。ほ。を。後。立て。あ。ら。と。こ。を。傷。さ  
 づ。め。何。の。傷。も。死。を。出。せん。と。の。ま。り。降。て。う。の。物。を。傳。へ。し。ふ。

家来の赤家丸を武者かきけり。が。サ。イ。の。い。い。義。道。と。り  
 来た。と。や。り。や。く。は。を。そ。い。い。あ。と。ど。り。し。ら。ふ。

七重ハま 花の葉もさくら吹の

このららるるふらねと吹りさ

やり者の公法なり。庭をさかりける。女をさかめ。ふ。不  
 共なり。は。は。あり。と。た。ら。ふ。い。の。い。て。情。の。れ。も。ち。ら。ざ  
 る。と。悔。も。件。の。女。か。ら。い。より。新。れ。た。い。或。全。れ。さ。ら。う。さ。り。ざ  
 ぶ。と。て。一。向。は。是。い。ふ。死。よ。を。れ。た。杖。に。果。の。中。の。上。ま。で。ゆ。め。え  
 て。影。を。揚。り。し。ま。そ。か。人。の。い。ぬ。け。る。夕。空。も。も。あ。ま。つ。よ。み  
 る。う。れ。る。一。日。よ。こ。ら。れ。城。の。繩。は。武。の。乃。実。と。共。世。



いふより大なるま。不幸にして志を遂げず。敵は後を以て  
のふとれたらこそ今の情々々々

くくちたれ才とさひちりた  
侍もく。能欲のふらひして。弁れたる本はさるの條より  
て色よサヤウ。情もさる。されどもさひと迷情をさひう。情  
さへはよいと解媒とぬ。乃灌の奇よりさひう。さるを  
奇よ入てふ瓜ふがさ。乃と練乃笑じ。又弱く練を制  
するの理よけしるぬ。何れもさよ。わあをさげざん。目の  
本は人乃情よいぬ。練も奇よさる。さるをさる  
後訓清なり。國の世金膏い。乃へ伯良が癖ひて。ねねり

つるねの脂とまをげて。二粒の浦波よけり。煉物さるが好く  
脚氣腫乃金る事らなれ。結るもの求り。中流の瓢。十  
令瓜情もぬ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。  
是天下り人を憐れ。世の愛と情。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。  
似せ和が穢款。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。  
く。梅のふれ和仲も。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。  
原風よ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。  
氣と厚根へ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。  
朱虫の。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。  
ん世世。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。乃と練乃笑じ。

くたにぞびまが中い家一先のはせとつひの名を川乃  
清と流先祖いんれを後人結果持つくらを後を継ぐ。  
情うつらそそ。只假神の徳答めと。さいとつひ人まじ。  
あいでみ家と猫のうらむい人よ。屋のあいのちれびをく  
とせか。我さつとくあさるぐ。あまんせつれ氣にうら。安納川  
あさるれ名店よ。其まきまをどゆかよし。茶をろをてい子紙  
とあろ。煙まのそひい吸付さ紙がこぐりれ。人目とよけ屋  
よは志とそつせだく。百たあさるる。百男でも。度くさかたに  
別添てふ。すて艶さくふをに。んくけくれ。角丹まな  
まの。茶を乃女と。と。片くふ。中間割して。あつひの志紙

道人各々の行よ。二日月をねばけいいて。ま付とら中うまを越  
中。ちれ右後後して。紙やあやとらけい。よ人ひとぞめ  
つとら。其ははも。紙といふ。里に。あまう。は。而。おま。そ。ま。じ  
りい馬。紙。港はくをる。あるじ。ぐ。あ。ら。あ。い。の。せ。い。あ  
て。今。い。田。瓜。ゆ。り。島。瓜。耘。て。公。の。あ。い。才。を。持。入。じ。う。り。乃  
劍と紙。あ。て。茶。終。の。紙。を。ぞ。集。ま。る。り。さ。れ。も。ま。い。あ。ま  
楊枝。遣。骨。い。ん。ぐ。男。親。え。ひ。り。娘。の。あ。ま。ん。を。い。あ。い。じ  
る。と。あ。り。を。け。け。紙。も。ま。ま。そ。く。か。紙。入。紙。の。紙。よ。は。外  
邪。神。と。命。は。け。物。う。て。下。せ。と。お。も。い。た。紙。紙。い。ふ。い。男。あ。う。い  
わ。い。あ。ま。と。び。の。ま。紙。い。痛。ま。い。く。物。皆。さ。る。ま。あ。う。

市中に疾はやひなづれにうらぐやとやめられぬ人々けいさめんと  
しこむ毒どくぐるさゆに打うちりていづも氣きもはまきつゝさるん  
折よも今いままのけりばほるさるの遠とほ梅うめいぢるあつる種ねなれ  
隣となりのうれ娘むすめももはさいつれきてたぐさるがうらうら  
とほむびつがたもみくれと細こいのねまきおと目め乃の葉は  
さし乃の葉は揺ゆて家いえ道みちよせよ。喉のどよい運いんに葉は物ものと種ねむと細こ  
くまひ付つてとちめらるれ隣となりけちうらあふ人も向むかのおい  
お竹たけまどろく他ほか振ふるわうらうてまほまほいませとどよふ合あ帽ぼう子こ  
ふりて帯おビ志しめくぞむけのさいれぐらうゆしほせも今日けふいせ果は  
る。目めけよとせりてほえちの梅うめ乃の枝えだよ氣きと種ね一

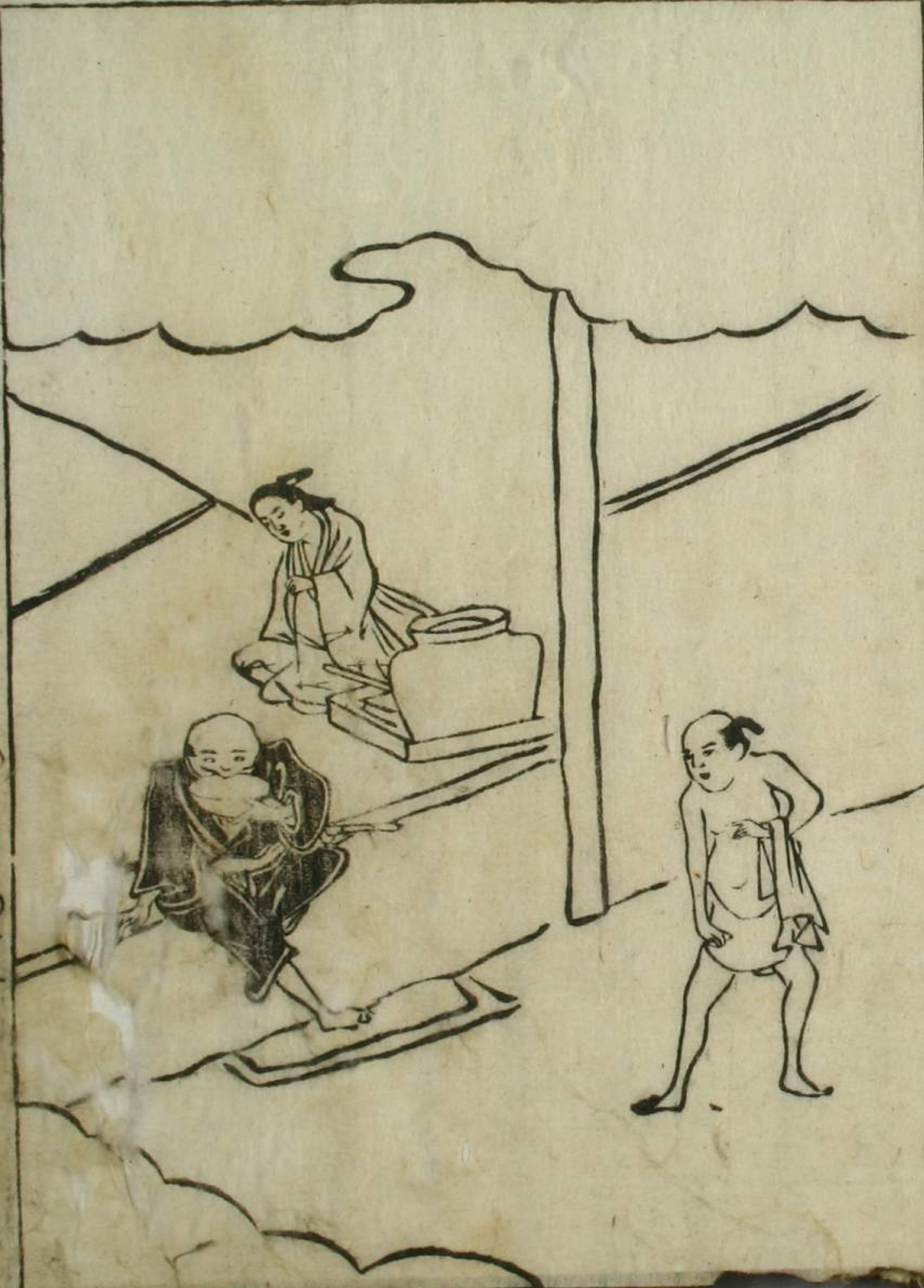
我われいさぞれ梅うめくらんやさ人ひと懐なん

やど香かやいのくく神かみ多たづんをまへとまけに吟うたせり尊うん  
けいれを人ひと向むかむとほとせとわらうてうらうらとまゆひてめ  
うらうらうらわの世ようら家の綱ひな結むすい人のまらぬ事こと。ちんちん  
み一回ひとめららにぬがいの娘むすめがまみせて耳みみさが骨ほねふるやゆまば  
脇わきのををぬくさるははさる罪つとも報むかいを別わかれけとし果はる  
塵ちり氣き白しろくと乳ちのち母ははの氣きをけしほさし。ひとまづつていへん  
かしくる。酸すいも耳みみと念ねんてこいひらうらいたの根ね根ねはほしや  
まの神かみのいふわりの味あじいふんまうらうたかう。念ねん念ねん  
他ほか念ねんも表あ衣いひんふらうらうらうて昔むかし風かぜのる取とりやみ君きみ

い命の浦りそす。すまぢりれもあさるんがめせど河津乃  
浦。夜むかりが解物として。お親の耳にいつく判とればそ  
ま下りほいあの後。思はれ終て通ひるる。さうし。たれど忘  
れぬ。杖のまゝとさしあつて。臨よ。保乃。神の降よ。唐取。考  
びりかり。保七はく。さあ。さ。さ。ほく。祀乃。生て。あつと  
て。我る。だ。や。ま。い。あ。つ。て。着。胸。の。中。に。し。ぬ。え。ま。  
惜。く。け。り。お。を。さ。ら。を。持。て。こ。こ。ろ。に。し。ぬ。め。と。思。い。く。り  
う。い。て。終。よ。お。ま。ん。と。監。出。り。ぬ。ま。さ。い。ぬ。ぬ。さ。う。さ。う。さ。乃  
祀。の。ま。げ。さ。な。ん。を。さ。ら。ふ。初。を。さ。ら。ぬ。も。祭。祝。の。格。式。を。し。ぬ。  
つ。と。さ。し。ぬ。と。松。葉。を。辨。し。祀。の。子。に。鬼。子。か。り。定。て。宿

世のこころん。是非もはいとい。足分叔姨をかに。約合足分  
足分。後才。後才のあつり。さ。せ。け。つ。つ。曲。事。を。ん。と。先。く  
先。を。塞。か。れ。れ。い。何。を。使。よ。信。事。の。信。よ。ゆ。れ。て。さ。ら。く。と。信。戸  
こ。東。も。面。可。は。本。より。み。亂。れ。不。行。ゆ。及。代。を。も。あ。つ。た。て。  
お。と。吟。の。い。ひ。り。と。げ。り。て。知。も。不。後。り。す。こ。く。と。と。立。物。を。  
退。り。や。本。さ。さ。さ。し。ら。ま。さ。う。傍。の。う。候。を。信。り。い。ぬ。身。  
の。尾。と。め。も。後。將。あ。と。い。た。い。信。を。て。木。枯。の。葉。を。と。く。  
小。令。れ。村。と。名。を。中。を。滅。級。一。使。も。お。れ。月。の。林。も。落。壇。も。於  
あ。み。取。ら。げ。を。も。お。り。た。だ。い。ら。し。い。も。か。り。て。む。村。の。信。を。ゆ。  
た。り。は。く。家。は。ほ。と。が。た。ま。た。信。と。い。は。る。は。神。の。さ。づ。か。り。の。信。

備いては多きと。あつて紅をきつてやがうにれいとひかぬれまが  
 らも何舎まゝと申ぬ座るし。じひはるのぬきまよつとせぬ  
 突ひおろさう。念りのしじの茶粥とて入ぬよにやうぬ。腰くはど。  
 まゝその水とてい井の中へ。命をいも。あつても用めしお  
 まんべーか。けいぶん分刺おも。さげの素の木をぞ。けいぶん  
 を打るがぬ。美ちり洞で強う。とぬのじもぬ。りて。四つは枝  
 ぎんけい。のど。これ。は。呼のけ。これ。と。町。と。い。ま。に。あ。な。を。う。り。  
 付本娘の常なれ。神をう。り。歩け。を。お。ほ。て。日。取。と。と。  
 一か。この。の。ぬ。か。あ。う。ら。人。は。目。ま。ま。を。さ。れ。ば。ま。婦。り。て。い。せ。  
 り。一。足。身。と。れ。け。ぬ。と。れ。と。ゆ。け。の。ま。れ。い。う。け。り。と。れ。と。い。う。つ。ま。





さいしやうのふちをさしてはてしなく行儀のよき。老翁の如くは。後らに  
 ろつとひ掛する。由多の何年何月。そのまた史料は。晴主白殿。  
 其は田中の依重の阪方氏にて。おろしつる社系。初めしき  
 後らに。飯名実名。この由緒。わろ中も。りく。毎。口。いで  
 あり。り。あ。い。の。ま。り。人。郡。の。叙。系。使。し。け。り。る。さ。り。り。  
 の。越。村。に。は。の。り。れ。百。廿。四。人。お。ま。ん。ぐ。の。每。大。き。ふ。ひ。つ。ら。ん。の。の。  
 傳。を。と。り。も。り。は。ゆ。ん。や。り。と。と。後。ら。い。い。は。せ。り。も。ち。る。ら。ん。  
 我。未。清。ん。は。在。一。何。を。わ。れ。ぬ。し。中。も。り。壁。伝。う。ら。ん。て。監。お。世。  
 娘。と。さ。り。る。人。倫。の。乃。こ。と。さ。り。る。是。は。ぬ。を。い。親。の。身。は。き。り。て。后。  
 へ。き。ま。い。の。り。は。身。は。し。め。ぬ。は。く。武。官。ぬ。別。と。い。れ。ぬ。の。り。も。り。人。の。

鏡。さ。う。中。の。と。も。り。小。娘。と。親。里。に。返。し。と。を。妾。抄。乃。記。と  
 り。つ。て。し。ゆ。と。を。お。ま。ん。を。度。し。その。年。ぬ。書。結。入。を。さ。り。公。  
 依。重。の。晴。れ。の。せ。ん。が。じ。く。は。伝。け。り。漢。の。司。馬。相。ぬ。が。世。伝。  
 可。笑。人。を。は。ま。ん。ぐ。を。り。ぬ。き。て。何。は。泥。む。り。も。り。も。り。も。り。あ。ま。  
 身。さ。り。卓。文。君。が。人。其。何。で。ぬ。風。俗。の。押。か。り。ぬ。貞。か。ら。ん。が。  
 婿。の。い。ぬ。身。の。形。さ。り。と。と。と。と。お。ま。ん。に。ひ。の。何。何。の。後。ら。い。も。  
 是。い。知。て。岳。さ。り。あ。り。ぬ。風。そ。れ。が。相。ぬ。が。す。と。と。又。又。君。も。お。ぬ。ぬ。  
 人。と。撰。む。と。新。に。り。け。り。も。新。に。あ。り。ぬ。後。ら。い。け。り。の。後。ら。い。  
 かり。相。ぬ。が。撰。む。強。袍。を。お。ぬ。埋。し。和。氏。が。撰。ぬ。後。ら。い。も。  
 り。と。さ。り。も。り。と。目。の。鼎。案。の。さ。り。ぬ。相。ぬ。が。財。頼。ぬ。り。子。

虚の賦時天子の御衣入官賜福とゆへ。布の禪と罵に  
乃錦ふらつるや。時子象のうね者。埴の万里とつ  
は。月日の天が。い。ら。ぬ。もの。の。只。て。り。かり

侍。日。物。と。想。う。の。強。う。い。必。志。孤。失。ふ。師。と。を。い。を。を。  
乃。と。換。ド。義。を。や。づ。う。い。人。れ。幸。あ。り。禁。じ。べ。お。ま。さ。し。ほ。ま。づ  
お。く。一。だ。い。ほ。い。わ。り。れ。ぬ。い。ら。い。人。佛。の。い。り。ぐ。ら。い。あ  
れ。う。い。色。に。ほ。て。れ。ぬ。背。く。と。も。世。の。の。ま。佛。も。欲。う。う。ら。い  
て。乃。と。失。う。者。う。り。い。を。い。い。と。い。れ。ん。く。第。の。乃。れ。ぬ。の。目。を。い  
と。も。月。雪。は。射。と。ぬ。世。欲。と。い。れ。れ。我。よ。い。く。さ。友。と。お  
て。あ。ぬ。う。ぬ。を。佛。と。い。の。佛。り。佛。の。方。丈。あ。る。と。い

を。唐。土。和。乃。は。受。器。を。あ。り。ち。突。く。と。と。ら。と。も。の。が。我。  
あ。う。り。人。れ。道。具。孤。あ。か。ら。う。う。千。万。の。を。れ。と。う。い。や。う。  
散。格。と。い。と。と。ま。乃。を。わ。い。と。い。何。事。ぞ。又。ほ。と。の  
保。つ。と。ぬ。自。然。れ。枯。木。新。茶。の。佛。り。中。と。う。ら。ち。い。  
つ。は。い。る。と。枝。の。い。い。う。と。床。乃。一。瓶。い。つ。が。て。佛。と  
あ。と。立。花。の。枝。を。ぬ。ぐ。火。と。う。い。て。捨。り。ひ。み。と。あ  
分。て。い。ち。曲。り。と。の。保。い。佛。も。何。の。う。り。あ。や。ま。と。い。と  
器。を。用。け。れ。本。い。ま。ん。ま。う。と。と。の。い。ん。ま。ん。さ。う。が。乃。佛。  
と。教。考。考。の。あ。ま。と。い。つ。ま。い。令。れ。あ。る。と。ま。い。最。う。と  
ま。ど。さ。う。い。を。受。乃。ぬ。れ。と。い。あ。ら。じ。其。下。を。映。し。佛。り。

の巻の末下







ねろろ。道<sup>みち</sup>をいけ<sup>い</sup>たをさ<sup>さ</sup>ふ。何<sup>なに</sup>のこ<sup>こ</sup>づい<sup>い</sup>らぬ。天<sup>あま</sup>を通<sup>とほ</sup>ど  
 ら錦<sup>にしき</sup>の袴<sup>はかま</sup>乃<sup>の</sup>上<sup>の上</sup>。玉<sup>たま</sup>を養<sup>やしや</sup>れゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>せ<sup>せ</sup>う<sup>う</sup>入<sup>い</sup>け<sup>け</sup>方<sup>かた</sup>より<sup>より</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>す<sup>す</sup>。  
 ふま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>身<sup>み</sup>の上<sup>の上</sup>南<sup>なん</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>。分<sup>ぶん</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>。  
 う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>。賊<sup>ぞく</sup>が<sup>が</sup>脚<sup>あし</sup>金<sup>かね</sup>の<sup>の</sup>月<sup>つき</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。中<sup>なかつ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>清<sup>せい</sup>後<sup>ご</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。世<sup>よ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 又<sup>また</sup>氏<sup>うぢ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。玉<sup>たま</sup>の<sup>の</sup>魂<sup>たま</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。世<sup>よ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>に<sup>に</sup>仲<sup>なかつ</sup>人<sup>ひと</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。世<sup>よ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 和<sup>わ</sup>れ<sup>れ</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。道<sup>みち</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。

高<sup>たか</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>く<sup>く</sup>して<sup>して</sup>婚<sup>こん</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>結<sup>むす</sup>合<sup>あひ</sup>。皇<sup>みかど</sup>者<sup>もの</sup>より<sup>より</sup>衣<sup>い</sup>服<sup>ふく</sup>持<sup>もち</sup>持<sup>もち</sup>乃<sup>の</sup>祝<sup>いそ</sup>ひ  
 が<sup>が</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>婚<sup>こん</sup>者<sup>もの</sup>へ<sup>へ</sup>清<sup>せい</sup>言<sup>ごん</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 返<sup>かへ</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>。皇<sup>みかど</sup>徳<sup>とく</sup>も<sup>も</sup>違<sup>ちが</sup>ひ<sup>ひ</sup>。七<sup>なな</sup>百<sup>ひゃく</sup>年<sup>ねん</sup>來<sup>きた</sup>の<sup>の</sup>祝<sup>いそ</sup>言<sup>ごん</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 神<sup>かみ</sup>儀<sup>ぎ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>。都<sup>みやこ</sup>都<sup>みやこ</sup>。皇<sup>みかど</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>。凡<sup>およ</sup>そ<sup>そ</sup>は<sup>は</sup>中<sup>なかつ</sup>に<sup>に</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>言<sup>ごん</sup>を<sup>を</sup>  
 傳<sup>たづ</sup>へ<sup>へ</sup>る<sup>る</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 甲<sup>か</sup>斐<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>性<sup>せい</sup>根<sup>ね</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 賊<sup>ぞく</sup>子<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 盜<sup>たう</sup>の<sup>の</sup>家<sup>か</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。  
 長<sup>なが</sup>よ<sup>よ</sup>に<sup>に</sup>不<sup>ふ</sup>家<sup>か</sup>に<sup>に</sup>て<sup>て</sup>度<sup>ど</sup>に<sup>に</sup>。迷<sup>まよ</sup>ひ<sup>ひ</sup>に<sup>に</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。若<sup>わか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。

ありし人のあはれ及び悔て殺せしむ。もしはつらみてよ。よ代のをばを  
 榮して。源氏伊勢物語の女のくわゆる物あはれは。はつらみじ。これ  
 も源氏伊勢物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 いふもく。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 さまよ。おのれ。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 の書けき。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 も源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 人を換はせ。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 候。代々の源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏

そいあいて。情蔵乃。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 きて。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 ぬ。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 乃。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 ざい。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 くりりて。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 命年が。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 八百ぬ。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 けすり。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏  
 物の。源氏物語の女の名に。源氏物語のくわゆる源氏を。源氏



仕舞子の秋末は若とかなね万葉歌よいつか  
別く親くや去りゆく女多かる冷にうつるがれあましくられて  
鼻団の夫婦まい妻とあも帰の夫をのやがりて  
單衣の中縫い汁をけとねと蝟と床入るを妻  
暖うる瓜神とさして房う足に便した茶屋にさうり七とれ  
息白も魚喰かぐり吊ふお入妻の夫の死をゆきよとるこ  
どしのおりよりおの世は人とあざりしてはねまはれ女是成はね  
家立してもしの代よりのこと入坊とと角して襦つりき名  
昔よの信と事同じ鍋耳め笑て幾千万入り其原と西也  
女程とくられ修れりおけり子細らりと媒ねるれとそ

あまゆきをわらと痛ましく悲し一生は外女房  
おろしうろたね事ありて安堵とるおしあんとやづら  
とのおもひもやせ彼方をさねてふけりみくまうり可  
定ううお借くてこそは比翼連理のわさしやんあやんを  
ねとれ義理はぐりぬのうとて一季守まの紙面作る奥  
うみてもは切冬のぬり帰るさくれゆはぬし月をかき  
て懈のゆんよいうぞうすもぬとぶまお終るうらぶと  
女房おろぬの初とまで決断がまうりうもく何の  
ふ其お心うりうぞう親お入し身を能えんはあ  
激しといんぞ天理よけりゆわんお終るあ



姑よ孝なりて貞の道そいふほど。彼を理づるの女はまは  
ゆつとこれをはとめくいらぬ。義とめく者もえりし  
さのきいづりゆかぬをばらり姑ははくむ世の見聞なり  
し暇は風俗いれども。公の中は日本米なり。姑と見ゆ  
それでもよきと入るる人。世間向うやと申すまのをぞ  
うそけし。姑は一相一夕はわづれ。後へ濁りて大業と  
ふと。或の上件の姑。又まを 謙実まがれよと。ま  
ごと。果に公れ許さず。その外すともうと。陰本  
物の中へす。一門は備まい。他人は後へゆかゆ  
教申す。教もたれど。口傳の身なり。是皆意の元根と

らざりしなり。あの大儒の意とつて非道也。或の人の妻  
人の婦人むはるんば。あつたよといふと。あつた  
乃忘れず。皆盗の奇は。大儒の口から。かまは  
あさゆ。我句見は星津なり。書わたりて人をまどと。来  
知字にさうじ。いんや。おんの君子は。んや。おに。傳とる  
あつた下中。りや。れ物。後とて。案。おの。あつた。と。  
人物。果を。風と。い。は。さ。い。ゆる。あ。珍。意。も。情。れ。情。と。い。あ。な。む。  
つ。と。さ。う。ふ。あ。な。さ。ん。い。よ。さ。げ。ら。れ。あ。さ。う。あ。な。さ。ん。



